

主要科目の概要【経済学科／学科科目】

●印は必修科目（数字は単位数）。

○印は選択科目（数字は単位数）。

■経済学の基礎

●経済学の基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ②②②②

景気に変化する過程と、市場経済の仕組みを学ぶ

1年次では「景気変動」の仕組みを学びます。生産活動には資金が必要で、その資金を融通する金融は不可欠です。そのため生産活動と金融は深く結びついており、その関係から景気に変化する過程を学びます。2年次では「市場経済」の仕組みの基礎を学びます。市場経済とは、人々が価格を見ながら自分の利益が最大になるように行動し、その結果、さまざまな資源が効率的に利用される仕組みのことです。その仕組みを補正・修正する政府の役割と経済政策も説明します。それらの基礎を学びながら、絶対王政時代から現代までの経済学の変遷もたどります。

■経済と生活

●日本の経済 ②

さまざまな危機や脅威にあえぐ日本経済の現状と未来を考える

第二次大戦後の日本は欧米と肩を並べるアジア初の経済大国に発展しましたが、近年は「経済の行きづまり」や「国力の低下」が危惧されています。日本経済変動の過程をたどりながら日本経済の特質を学び、日本が再び国力を高めるために取り組むべき課題も考察します。

●北海道の経済 ②

北海道経済の過去・現在を学び、未来を考える基礎力を養う

北海道は「経済的に自立すべき」と言われますが、経済的「自立」とはどのような状態なのか。北海道経済の「強みと弱み、機会と脅威」を整理し、北海道で働き、生活し、未来を担う子どもを産み育てる女性として身につけるべき地域経済の基本的知識を学びます。

●消費と経済 ②

私たちの暮らしから経済を見直す

私たちの消費（民間最終消費支出）は国民総支出（GNE=GNP）の中で60%弱も占めています。これまで「生産ありき」の考えが優勢でしたが、日本・世界経済にとって極めて重要な「消費」を経済発展の中で捉えながら、今後の消費のあるべき姿を考えていきます。

●税金と経済 ②

税の経済活動への影響と日本財政の抱える問題

現代人の生活に欠かせない税金とはどのようなものなのか。税金の仕組みと使途について、身近な事例から「税金と経済」について具体的に考察し、現代社会における税金と社会保険料の意義について考える視点を身につけることが講義のねらいです。

●労働と経済 ②

現代の労働環境を知り、これからの女性の働き方を考える

少子化・高齢化という社会構造の変化と国際競争の中で、企業は人の雇い方・働かせ方を変えてきています。女性労働力に期待する一方で、契約社員・派遣社員の増加など雇用形態は流動化傾向にあります。こうした女性の働き方の変化を理解し、働き方について考えます。

●福祉と経済 ②

介護保険制度や年金など、具体的事例で福祉と経済を考える

保険証がなく病院にかかれない人が増え、介護が必要なのに施設に入れない現状があります。国民年金の保険料未納者が増え、その制度の存続が危ぶまれています。なかなか光明を見いだすことのできない日本の福祉の現状と問題について考えていきます。

●環境と経済 ②

経済学的発想によって環境問題への有効的な視点を示す

環境問題は、私たちの生活に大きな影響を及ぼす問題のひとつです。具体的事例をもとに環境と経済の基礎的理解を深め、原子力とエネルギー問題、再生可能エネルギーの可能性などについても取り上げ、社会に出てからも活用できる知識を身につけます。

■金融と国際経済

●金融と経済 ②

日本の金融システムの特色と変化を学ぶ

金融のグローバル化が進み、金融システムの再構築の動きが活発化しています。経済の中軸としての金融の重要性は、これからますます高まっていくことでしょう。日本の金融システムの特色を多角的に考察することで、金融についての理解を深めていきます。

●銀行と金融 ②

“銀行がわかる” “お金と金融がわかる” がテーマです

銀行は、金融市場や金融システムを通して国民生活と経済活動を支える中核的な金融機関です。銀行には他の金融機関（例えば信用金庫、信用組合、ゆうちょ銀行、政府系金融機関、証券会社、保険会社）との共通点や相違点があり、社会を支える仕組み、そこで働く人々の姿も考えながら基本知識を学びます。

●証券と金融 ②

株式相場と社会・経済の動きの関連で証券の基礎を学ぶ

証券取引は、金融経済の血液として、企業・家計・国家財政において非常に重要な役割を果たしています。証券の基礎・仕組み等を学び、株式投資の模擬実習「株式学習ゲーム」を通じて、株式相場と社会・経済の動きとの関連性、企業の評価等を学びます。

●保険と金融 ②

さまざまなリスクから社会を経済的に守る補償の仕組みを学ぶ

保険はリスク（火災、事故、地震など）が現実化したとき、その損害に対して経済的な補償を提供するもので、金融市場とも深く結びついています。私的保険と公的保険の役割と仕組みを通じ、私たちの安心をどのように支えるのかを学びます。

●国際経済 ②

日本経済と他国の経済の関係を統計・資料で学ぶ

「外国の貿易政策が日本にどのように影響するのか?」「なぜ貿易の自由化が推進される方向に進んでいるのか?」「どのような貿易政策が望ましいのか?」など、国際貿易の問題を中心に解説し、日本の経済と他国の経済との関わりについて理解を深めていきます。

●国際経済事情 ②

EUを通して、ヨーロッパの過去・現在・未来を考える

いまやアメリカを上回る巨大経済圏に成長した欧州連合（EU）。ヨーロッパの国々は、なぜ国境を越えて「人、商品、資本、サービス」が自由に移動できる共同体をめざしたのか。超国家的組織 EU の過去・現在・未来について多角的に考察し、理解を深めていきます。

●国際金融 ②

国境を越えてグローバルに展開している金融の動きを学ぶ

経済のグローバル化が急速に進み、国境を越えた金融取引が増大し、巨額の資金が地球を駆け巡っています。国際金融は、海外旅行などを通して、私たちにも身近な存在です。国際的な金融の動きを多角的に考察し、緊密化している世界と日本の関係を探ります。

■経営と情報

●企業と経営 ②

企業の種類、役割と経営の仕組みを学ぶ

私たちの生活に深い関わりを持つ「企業」は、社会や経済にも大きな影響力を持ちます。企業が社会で果たしている役割を理解し、その運営の仕組みを学ぶことを目的とします。身近な事例を取り上げながら、企業とその運営の仕組みについて解説します。

●簿記Ⅰ・Ⅱ ②②

企業経理で用いられる複式簿記を基礎から学ぶ

企業経理を行う際に使われる「複式簿記」の基本的な仕組みを理解する、初心者向けの簿記入門講座です。簿記の目的から期中取引の記録方法まで商品販売業を前提とした商業簿記の基本を理解し、簿記検定3級レベルの知識の習得をめざします。

●企業と会計 ②

企業の経営状態を客観的な数値で知る方法を学ぶ

企業の経営状態を把握する「財務分析」を学びます。複式簿記の知識を基礎とし、会計情報を整理、比較、検討するために企業が公表する各種財務諸表の見方及び分析方法等を習得します。経営成績の判断、倒産の危険度、利益獲得のための経営計画に役立ちます。

●企業と市場 ②

マーケティング活動を理解する

企業は生産する財やサービスを消費者に購入してもらうことで存続できるため、消費者が望む財・サービスを生産して送り届ける活動が必要になります。これがマーケティング活動です。現代では企業の中核的な活動となったマーケティングの仕組みを理解していきます。

●企業と法律 ②

企業活動について定めている会社法と商法の基礎を学ぶ

自由経済社会において、人は自由に利益を求める営利活動を行いますが、法治国家においては法に適合していなければなりません。代表的な企業である株式会社の解説を中心に、営利活動について定めた商法および会社法について講義を行います。

●コンピュータ実習Ⅲ・Ⅳ

検定試験合格をめざす ①①

実習Ⅲは財務会計に関する実務能力を習得し、会計ソフト実務能力試験1級の取得をめざします。実習ⅣではWord、Excelの高度な応用利用をめざして実習し、マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)などを目標にしていきます。